

## 天体観望会の革新となるか？『eVscope』

田中直樹

何年か前。天文雑誌や SNS などクラウドファンディングの告知を行っていた『eVscope』。

Unistellar 社と言う海外ベンチャー企業（仏だったかな？）が開発した「”電子観望専用”天体望遠鏡」ですが、これが現在、天体観望会の世界では注目を集めています。



写真：Unistellar 社公式ページより

特徴としては「反射鏡のプライムフォーカス部に CMOS センサーを置き、撮像した画像を内部コンピュータとスマホアプリで『ライブスタック』して、スマホと鏡筒にある『ビューファインダー』に表示、さらにはスマホからの簡単操作で（プレートソルビングによる）自動導入と追尾が可能」と言う、要は近年のトレンドを一つに凝縮したような仕様の望遠鏡になっています。さらに現行モデルの「eVscope 2」は、ニコンと共同開発したビューファインダーを装備しています。

この「eVscope」、今やポピュラーとなった電子観望と一線を画するのは、「ビューファインダー（ミラーレス一眼の EVF のようなもの）」が搭載されていること。言ってしまうと、通常为天体望遠鏡と同じように「覗く」事が出来る訳です。これが望遠鏡での一般的な天体観察のイメージと重なり、観望会に導入された方も増えて来ています。また電子観望ならではの「光害地での観望会」での「星雲星団や銀河などの DSO 観望」が簡単に行えるのも高い評価になっています。それがスマホで簡単操作なのも高ポイント。

しかし、観望会で使用している方が言うところの欠点としてはまず「月・惑星観望との相性が良くない」そうで、鏡筒自体の焦点距離の短さやソフトの画像処理の問題だと思います。そもそも現行モデルで 529,800 円と言う価格の問題も大きな難点だと思います。

まあ正直なところ、”自身の趣味として”天体撮影や眼視観望を本格的に行っている方ほど懐疑的になり、天体観望会など”人に天体を見せている”方ほど肯定的になる、そんな機材なのかなと感じます。

割と多く聞く評価としては、『天体観望会の望遠鏡の中に一台混ざっていると面白い、そんな機材』